

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報

# おおづ

1  
JANUARY 2024

Public relations  
OZU TOWN



①県大会で小説「僕が僕をやめる日」を書評する中原さん。1月28日に東京で開催予定の全国大会に出場します②本以外に夢中になった音楽。軽音部に入部したときに買ったエレキギターは今も大切に使い続けています。

clozu-up  
Ozu-jin  
クローズアップ 大津人

広報 おおづ 2024 1



発行・編集 ■大津市・総合政策課  
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地  
TEL.096(293) 3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>



印刷 ■ホーテ印刷株式会社  
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物性インクを使っています。

UD  
FONT  
見やすくて読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

## 「本」が出会いの きっかけになる

なかほらあかり  
中原朱梨さん(大津)



高校生がおすすめの本を紹介し、「一番読みたくなった一冊を聴衆が選ぶ「全国高校ビブリオバトル」の県大会で優勝した大津高校3年生の中原さん。本はどんな存在なのかを聞いてみた。

「本は私が知らない世界を広げるだけでなく、好きな本や作者を通じて友だちの輪が広がります。私にとって本は人と人をつないでくれる大切な存在」と中原さんが本を好きになったのは幼稚園の頃からだった。初めて小説を読んだのは小学2年生の時。文字のみで書かれた小説は想像力をかき立て、文字の裏に込められた思いを考察しながら読むのが好きで、謎解きの感覚で本を楽しむのだそう。

高校に入学してからは図書委員会に所属。人前で話すのが苦手だという中原さんだが、図書委員会の先生の強いアプローチがあり、高校生活最後の思い出にと初めてビブリオバトルに出場することを決意した。

県大会の発表順が1番目で緊張する中原さんは大会当日のリハーサルまで原稿が覚えられなかったという。本番が始まって4分間は順調に進むも、終了1分前のチャイムが鳴った瞬間、頭が真っ白に。しかし、中原さんは最後まで諦めずに本の魅力を話し続けた。「話したいことを忘れても、何か話さないといけないと思って無我夢中で話し続けました」と選んだ本を何回も読んで、聴衆にどうしたら自分の好きな本を読んでもらえるのか、一生懸命考えたからこそつないだ思いだった。

春から県外の大学に通う中原さん。将来は、本に関わる仕事に就きたいと夢が膨らむ。大学では経済学など幅広い学問を学び、ビブリオバトルを行うゼミにひかれて大学でも挑戦したいと目を輝かせる。本から広がる新しい出会いにわくわくが止まらない。

## こころの声

あけましておめでとう  
ございます。いつも広  
報おおづを読んでくだ  
さる人も、取材に協力  
いただいた人も、昨年  
は大変お世話になりま  
した。皆さんのおかげ  
で大津町の魅力を取り  
上げることができてい  
ます。今年は昨年より  
もっと大津町の人や活  
動など、魅力を紹介で  
きるように町内を駆け  
回りたいと思います。  
緑の腕章をつけた担当  
を見かけたときはお声  
掛けください。取材の  
励みになります▼「一  
年の計は元日にあり」と  
という言葉があります  
が、物事はスタートが  
肝心です。今年の私の  
目標は健康体を手に入  
れることです。元日は  
ランニングから1年を  
始めたいと思います。  
皆さんはどんな目標を  
立てましたか(末永)



新しい日の出と共に、  
新たな一年の扉が開かれる。  
あなたが輝く年と  
なりますように—。